

令和2年6月定例会市議会市政報告

令和2年第2回釧路市議会6月定例会の開会にあたり、2月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は、「**新型コロナウイルス感染症**」についてであります。

未曾有の危機に直面する中、管内唯一の感染症指定医療機関として治療にあたっていただいております、市立釧路総合病院をはじめ、市内の医療従事者の皆様、重症化が懸念される高齢者施設などでご対応いただいている職員の皆様、また、社会生活の維持に欠かせない業務に携わる皆様など、それぞれの現場で必死に奮闘していただいております。

そして、市民の皆様、釧路市経済を支えていただいている事業者の皆様には、感染拡大の防止に多大なるご協力をいただいているところであり、全ての皆様に心から感謝と敬意を表する次第であります。

市のこれまでの対応につきましては、「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を15回開催し、全庁を挙げて市民の皆様の安全・安心の確保、市内経済への影響緩和、必要な情報の発信などに全力で取り組んでまいりました。

また、5月20日には、釧路市議会において議員協議会を開催していただき、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用した市の取り組みに対し、様々なご意見をいただいたところでもあります。

休業や活動自粛にご協力いただいた事業者の皆様におかれましては、売上が大きく減少するなど大変厳しい状況を強いられており、市民生活にも深刻な影響を及ぼしております。

そのため、まずは市民の暮らし、経済を支える事業者への緊急支援として、「丸釧資金の特例措置」による無利子つなぎ資金の融資斡旋を行うとともに、「水道料金・下水道使用料の免除」や「休業等支援金の給付」、6月末まで再延長が決定された「ごちそうタクシー便」に取り組む関係業界への支援を行っているところであります。

また、「特別定額給付金」や「子育て世帯への臨時特別給付金」など国関連の事業のほか、離職などにより経済的に困窮し、住居を失った方等を支援する「住居確保給付金」への対応も進めております。

なお、特別定額給付金につきましては、6月9日現在、全94,499世帯のうち、88,957世帯、94.1%から申請をいただいております、46,456世帯、総額88億2,300万円のお振込みをさせていただいたところでもあります。

このほか、市民及び全国の方々に元気を届けるため、釧路市観光大使のヒートボイスさん・SAMさん・木原健太郎さん・真氣さんによる応援メッセージの動画配信をしていただくとともに、ヒートボイスさんによる「元気発信LIVE」をFMくしろの生放送と動画配信により行っていただきました。

次に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金につきましては、5月1日に釧

路市の交付限度額6億9,007万円が示され、22日には交付金の実施計画を北海道に提出いたしました。

実施計画には、市が緊急支援として実施した諸事業に加え、「若年者等雇用事業」や「プレミアム付商品券等発行事業」、「病院事業会計への繰出・補助事業」など、全10事業を掲載し、その総額は14億42万6千円となったところであります。

これらの事業は、「感染防止」並びに「雇用の維持と継続」という、今生き延びていくために必要な施策に主眼を置いて取りまとめたものであり、今後、次の段階としての経済の回復や、強靱な経済構造の構築に向けた施策などについて、さらに検討してまいります。

本交付金は、国の補正予算に伴う増額が見込まれるところであり、夏頃以降に第2次分の実施計画の提出が予定されておりますことから、国等の動向を注視し、適切に対応してまいりたいと考えております。

報告の第2は、「令和2年国勢調査釧路市実施本部の設置」についてであります。

国勢調査は、国内の人口、世帯の実態を明らかにする国の最も重要な統計調査であり、本年10月1日を調査期日として、全国一斉に実施されます。

市では、国勢調査の重要性を踏まえ、正確かつ円滑に調査を実施するため、去る5月27日、「令和2年国勢調査釧路市実施本部」を設置するとともに、釧路、阿寒、音別の各地区に支部を設け、地域の実情に合ったきめ細やかな実施体制を整備いたしました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に困窮した学生を支援するため、調査に従事する調査員や、事務処理を担う会計年度任用職員として採用してまいります。

調査の実施に当たりましては、全庁的な協力体制のもと、市民の皆様のご理解をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

報告の第3は、「企業版ふるさと納税の受付開始」についてであります。

釧路市では、本年4月より、企業版ふるさと納税の受付を開始いたしました。

企業版ふるさと納税は、釧路市が人口減少に立ち向かうために策定いたしました「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第2期計画の取り組みに対し、釧路市外に本社を置く企業の皆様から寄附という形で応援していただくものであります。

いただいたご寄附は、地域資源を生かした観光地域づくりや、働く世代の健康を支える取り組みなど、第2期総合戦略に基づく事業を実施する貴重な財源になるとともに、企業の皆様にとりましても、CSR活動の推進や企業のイメージアップなど、メリットのある取り組みであると考えております。

今後は、企業版ふるさと納税の受付開始につきまして、釧路市にゆかりのある企業をはじめ、多くの民間企業の皆様に広く周知させていただき、さらなる総合戦略の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第4は、「令和元年度各会計の決算状況」についてであります。

はじめに、一般会計につきましては、歳入総額約937億1千万円、歳出総額約936億3千万円となり、形式収支は約8千万円の黒字となったところであります。

これは、歳入で、各種事業の執行に伴う国庫支出金や市債など、繰越明許費を含めて約61億2千万円の収入不足となったものの、歳出において、扶助費の減並びに工事契約差金や経費の節減などによる執行残が、繰越明許費を含め、収入不足分を上回る約62億円となったことによるものであります。

決算剰余金のうち、繰越明許費に充当する一般財源約43万円と、今後の補正財源として約4千万円を次年度へ繰り越すとともに、4千万円を財政調整基金へ、積み立てたところであります。

特別会計につきましては、国民健康保険特別会計で、保険料収入の増や保険給付費が予算を下回ったことなどから、約2億1千万円の剰余金が生じたので、国民健康保険事業運営基金に積立てをいたします。

介護保険特別会計の保険事業勘定では、国及び道負担金等の超過受納や保険給付費が予算を下回ったことなどから、約8億1千万円の剰余金が生じたので、介護給付費準備基金に積立てをいたします。

国民健康保険阿寒診療所事業特別会計ほか、他の特別会計につきましては、概ね収支均衡する見込みとなっております。

報告の第5は、「工事発注状況」についてであります。

5月31日現在、本年度の建設事業の発注予定額は、約139億4千万円となっており、発注済額は約27億1千万円であり、発注率はおよそ19.4%となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約25億7千万円、率ではおよそ95%であります。

今後とも地域経済の動向を念頭に置き、工事の早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。